ふくおか湿地保全研究会の活動地をまるっと解説。

博多湾

HAKATAWAN-TOBU

行ってみよう！

東部

見てみよう！

いきものガイド

2012 福岡市環境市民ファンド助成
エコ発する事業の補助を受けて作成しています

NPO 法人　ふくおか湿地保全研究会
〒813-0044　福岡県福岡市東区千早 1-6-14
URL　http://wetland-research.org

Click!
湿地研　検索

■このパンフレットの一部、または全てを著作権を超える形で断り無く複写・掲載・転載することを禁じます。

発行：2013 年 3 月

製作　NPO 法人ふくおか湿地保全研究会

まえがき

ふくおか湿地保全研究会は、博多湾に残る貴重な財産である湿地環境を次世代に残すため、野生生物の調査やその結果に基づく保全活動をはじめとして、市民の方を対象とした観察会や講座の開催、保全が必要な場所の清掃など、さまざまな活動を行っています。

今回、当会が主に活動を行っている福岡市内の湿地環境やそこに生息する生きものについて、より多くの市民の皆さんに知って頂くためにパンフレットを作成しました。普段あまり自然や生きものとは接点のない方でも、このパンフレットを見て頂くことで、それらの地域に興味をもって頂けるのではないでしょうか。

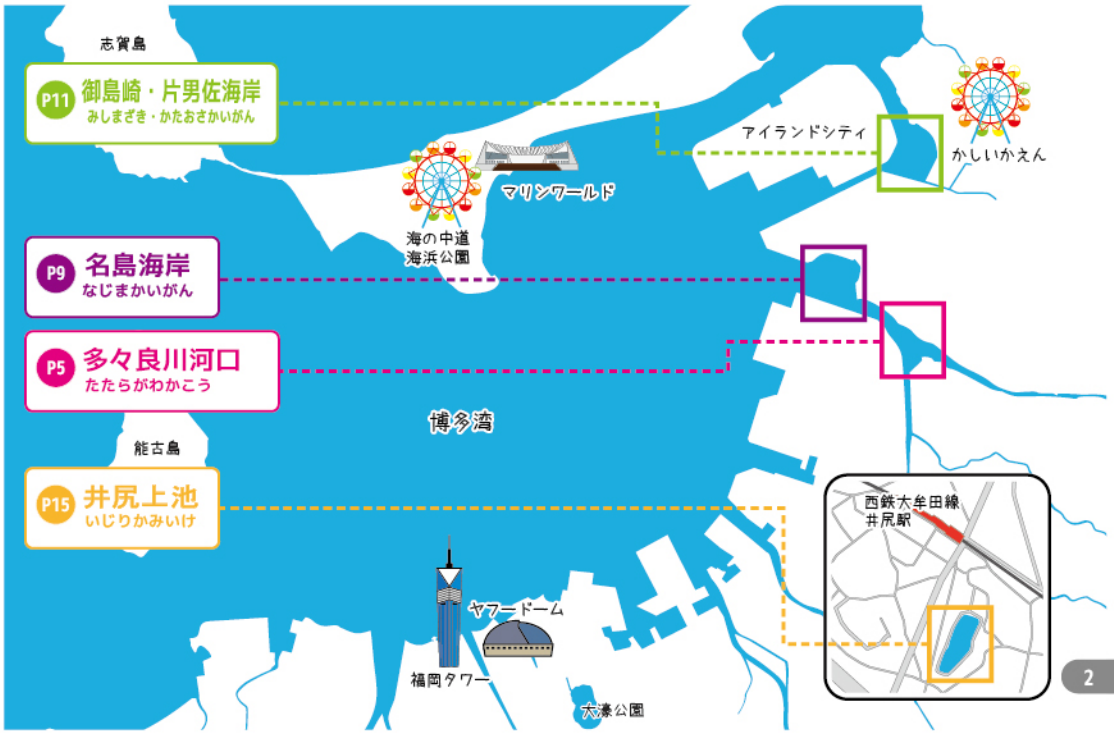
時代の大きな変遷にあっても、今なおその姿を残す歴史的な遺産や自然環境。それらの繋がりを通し、私たち人間と自然環境とのこれからのあり方を考える上で、何かのきっかけになれば幸いです。

NPO 法人 ふくおか湿地保全研究会
理事長　服部 卓朗

CONTENTS

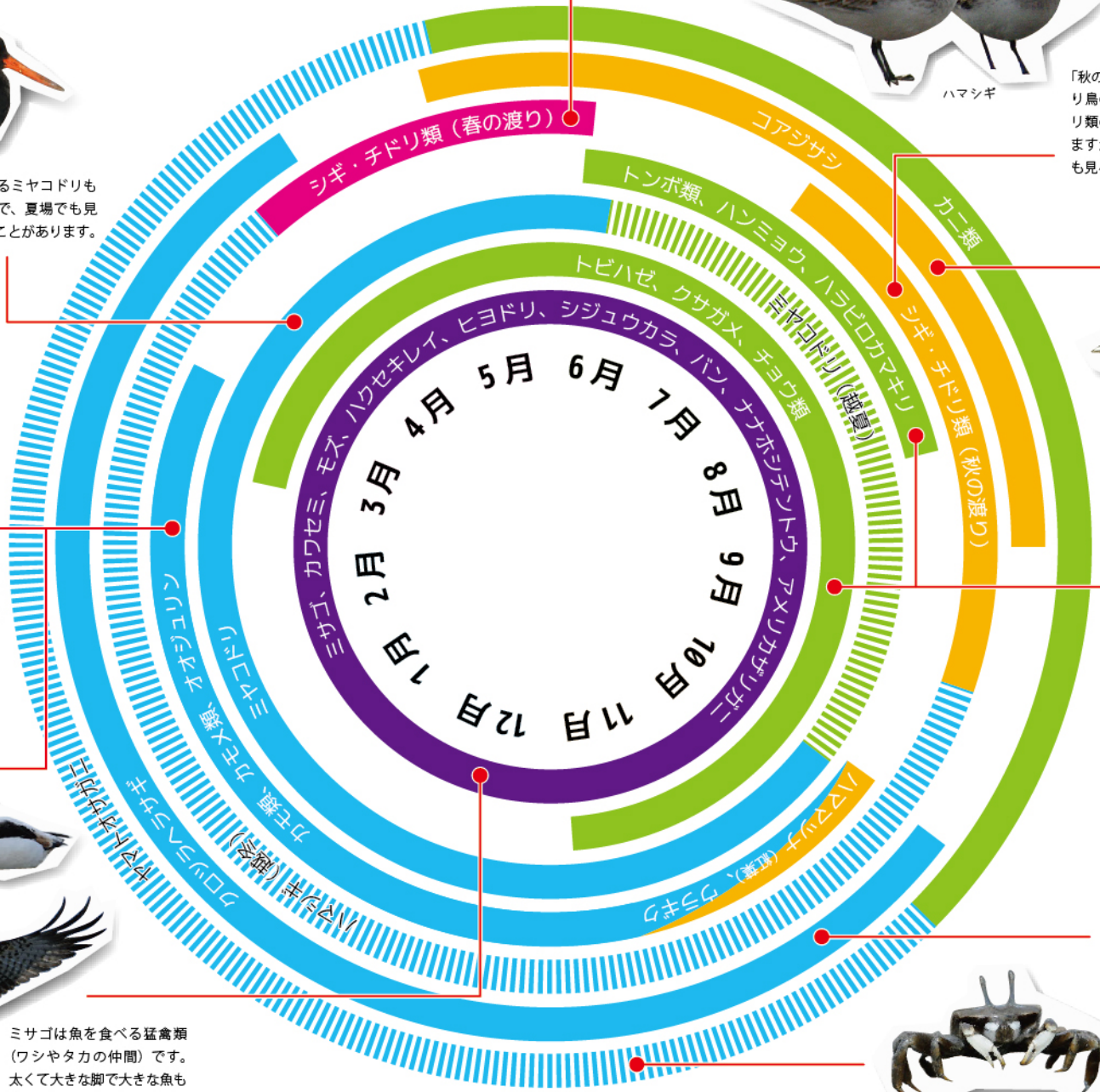
1　まえがき
2　博多湾東部 MAP
3　生きものカレンダー
5　多々良川河口
7　特集 1：クロツラヘラサギ その魅力にせまる
9　名島海岸
11　御島崎・片男佐海岸
13　特集 2：コアジサシの子育てを応援しよう
15　井尻上池
17　特集 3：今、「釣り糸被害」を考えよう

博多湾東部 MAP



いきものカレンダー

パンフレットの中に登場する生きものを中心に、いきものが観察できる主な時期をカレンダーにまとめました。



ミヤコドリ

越夏するミヤコドリもいるので、夏場でも見られることがあります。

ズグロカモメ

ウミネコ

ユリカモメ

おなじみのウミネコ、ユリカモメをはじめとして、九州には絶滅危惧種に指定されているズグロカモメも飛来します。

ツクシガモ

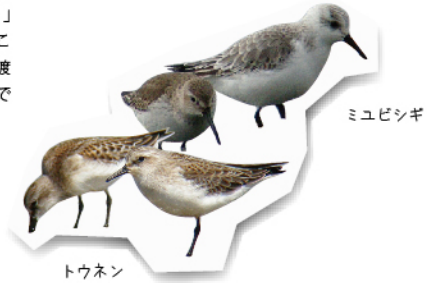
博多湾では数多くのカモが観察できますが、中でもツクシガモは他の地域ではあまり見られない、九州ならではの冬鳥として野鳥ファンに人気です。

ミサゴ

ミサゴは魚を食べる猛禽類（ワシやタカの仲間）です。太くて大きな脚で大きな魚も一掴みします。

シギ・チドリ類などの旅鳥は、繁殖のために北へ移動する「春の渡り」と、繁殖を終えて南の越冬地へ移動する「秋の渡り」をします。この渡りの行き帰りに博多湾へ採餌・休息のために立ち寄るため、渡りの時期には他の時期には見られない様々な種類の鳥たちを観察できます。

ハマシギ


ミユビシギ

トウネン

「秋の渡り」という表現をしますが、夏にはもう渡り鳥の姿が見られるようになります。シギ・チドリ類の中でも、ハマシギは南へ移動するものもいますが、博多湾で越冬する個体も多いので冬の間も見ることが出来ます。

コアジサシ

シロチドリ

夏は鳥の繁殖シーズン。コアジサシや、シロチドリの小さな雛は必見。

モンシロチョウ

春～夏の暖かい時期は、昆虫や両生類、爬虫類なども多く活動する時期。まさにいきもの観察のシーズンです。

ニホンカナヘビ

クロツラヘラサギ

博多湾の冬を代表するクロツラヘラサギ。愛嬌のある姿で、ファンも多い鳥です。

ヤマトオサガニ

カニ類の多くは夏場が見頃ですが、ヤマトオサガニは夏だけでなく冬の間もみることができます。

多々良川河口

多々良川の河口域は、川にすむ生きものたちに加え、潮が引いて現れる干潟にも多くの生きものたちがすんでいます。植物、昆虫、カニ、ゴカイ、貝、魚、そしてそれらの生きものを餌とする色々な種類の鳥たちを年間を通して観察できる多様性豊かな場所です。

ミドコロ1 おなじみの鳥も季節の鳥も。何種類見れるかな？

多々良川河口には鳥がたくさん。アオサギやミサゴ、カワセミ、ハクセキレイといった鳥たちは一年中見ることが出来る留鳥です。でも、なんといっても多々良川の魅力は季節ごとにやってくる渡り鳥たち。中でも秋にやってきて春まで越冬するクロツラヘラサギは多々良川のシンボル的な存在になっています。冬にはカモやカモメの仲間も多くやってくるので、とても賑やかです。春や秋には、長旅をするシギやチドリの仲間たちが多々良川に立ち寄って、栄養補給をしていきます。

カワセミ
「空飛ぶ宝石」と呼ばれるきれいな翡翠色をした鳥です。水中に飛び込んで魚や虫を捕らえて食べます。

セグロカモメ
背中は黒ではなく、灰色。脚がピンク色で、くちばしの先の下だけが赤くなっています。

クロツラヘラサギ
多々良川のアイドル。くちばしを横に振りながら餌をとる姿がユーモラスです。

ハママツナ
葉と茎が肉厚で、葉の断面は三角形をしています。秋になると真っ赤に紅葉するのが特徴です。

ミドコロ2 塩生植物ってなんだろう？河口ならではの植物たち

河口や海岸沿いなど、塩分を含む土地に生える植物のことを「塩生植物」といいます。その種類によって、塩分濃度海の好みもさまざま。水と川の水が混じり合う河口は、塩分濃度が変化するので色々な種類の塩生植物が生育しています。多々良川河口は塩生植物が数多く見られる市内でも貴重な場所です。生育区域の周辺は保全のために県が「立ち入りはご遠慮下さい」という看板を立てており、普段は立ち入りを避けているため、塩生植物を見てみたい！という人は、清掃・観察会に是非参加してみてください。

ハマサジ
葉がスプーンのような形をしてることから、その名がつきました。準絶滅危惧種に指定されています。

ウラギク
別名ハマシオン。8月から11月に花を咲かせます。準絶滅危惧に指定されています。

ミドコロ3 多々良川にすむカニはなんと20種類以上!?

多々良川河口には泥・砂・小石といった干潟やヨシ原、石垣などさまざまな環境があり、20種類以上のカニが生息しています。

カニの観察がしやすいのは6月～9月の大潮の時。干潟でたくさんのカニたちが盛んに活動します。穴に隠れてしまったカニは、穴の前でじっとまっていると出てきます。少し離れて、双眼鏡などで観察すると、のびのびした動きが見れますよ。

ハクセンシオマネキ
白くて大きなハサミが白い扇のように見えることからその名前がつきました。オスが身体一杯にハサミを動かす姿が印象的です。絶滅危惧II類に指定されています。

チゴガニ
甲羅が三角形をしており、大きさは1cmほどの小さなカニです。白いハサミとお腹側の水色がとてもキレイです。

ハマガニ
ヨシ原で一番大きいカニ。見かけは怖いけどベジタリアンです。

ウモレベンケイガニ
危険を感じると死んだふりをします。あまりにも動かないので、本当に死んでいるように見えます。福岡県の準絶滅危惧に指定されています。

コメツキガニ
おむすび型の形をした小さなカニです。お腹が紫色をしています。

ミドコロ4 魚なのに泳げない!? トビハゼを探してみよう

水面や干潟をぴょんぴょんと跳んで移動するトビハゼは、魚なのに水中生活が嫌いというちょっと不思議な魚です。そのため潮が満ちてくると巣穴や陸上に逃げていきます。冬は巣穴でじっとしているので、春から秋に探してみて下さい。

歴史コラム

多々良川の歴史 ～二度の多々良浜合戦～

多々良川周辺では、大きな戦が二度行われました。
一度目は延元元年(1336)、九州に落ちのびてきた足利尊氏が、肥後の菊池氏の大軍と多々良川を挟んで戦いを繰り広げました。不利な情勢だったにも関わらず勝利した足利軍は、これを機に勢力を盛り返し、後に室町幕府を開くこととなります。
二度目は永禄十二年(1569)、立花山城の帰属を巡り大友宗麟と毛利元就が戦いました。この戦いは長期間に渡り、毛利氏が撤退して大友氏が勝利をおさめました。

福岡流通センターの一角に一度目の合戦の犠牲者をまつる「兜塚」があり、その由来を記した石碑を見ることが出来ます。

多々良川定例清掃・観察会

みんなで川をキレイに保ちましょう

☎ 090-8623-7521（木下）
▦ 東部水処理センター駐車場
▽ 毎月第4日曜日 14時～16時
※7，8月は15時開始、12月は休み

毎月第4日曜日に多々良川の清掃活動と生きものの観察会を行っています。興味のある方は、是非お気軽にご参加下さい。

- 軍手・作業用具の貸し出しあり。
- 長靴をお持ちの方は長靴でご参加下さい。
- 夏場は熱中症予防のため、帽子着用・通気性の良い服装でお願いします。
- 藪に入ることもありますので、長袖、長ズボン、長靴の着用をお勧めします。

特集1

クロツラヘラサギ その魅力にせまる

クロツラヘラサギという名前を聞いたことがありますか？最近では飛来時期などにテレビや新聞でその名を耳にする機会も増えてきたように思います。しかし、名前は聞いたことあるけれど、どんな鳥かはよく知らないなんて人も多いかも知れません。

福岡にやってくる世界的に稀少な鳥、クロツラヘラサギ。その魅力をご紹介します。

1990 年代までクロツラヘラサギはあまり知られておらず、生息数も 500 羽以下と絶滅の危機に瀕していました。しかし、クロツラヘラサギが生息するアジアの各国をはじめとする世界中の国々が国境を超えて協力し合い保全活動を続けた結果、現在では 2500 羽ほどが確認されるようになりました。それにより、クロツラヘラサギは「最も保全に成功した例」とされ、環境保全の代表的存在になっています。しかしながら、現在でもクロツラヘラサギは環境省第 4 次レッドリスト (2012) において絶滅危惧 IB 類に分類され、絶滅の危機からは逃れられていません。

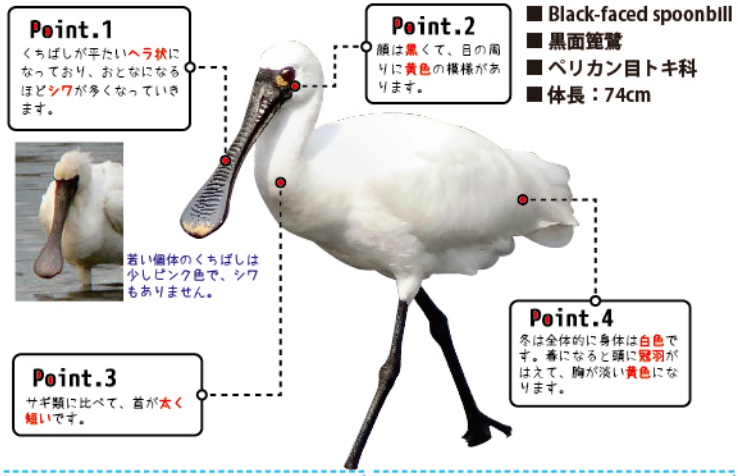
このように世界的に稀少な鳥であるクロツラヘラサギは、毎年福岡に飛来し、博多湾周辺で冬を過ごします。彼らについて学び、ともに見守っていきませんか？

クロツラヘラサギってどんな鳥？

クロツラヘラサギはペリカン目トキ科に属し、「サギ」という名前がついていますが、サギではなくトキの仲間です。

ヘラサギの仲間は世界で 6 種類が知られ、日本で見ることが出来るのはクロツラヘラサギとヘラサギの 2 種類です。日本の中でも九州はクロツラヘラサギたちの貴重な越冬地になっています。

まずは、クロツラヘラサギの身体の特徴について知りましょう。彼らの姿はとってもチャーミング。名前にある通り、顔が黒くて、くちばしがヘラ状になっています。目の周りには黄色い模様があり、その大きさや形は個体によって異ります。



若い個体のくちばしは少しピンク色で、シワもありません。

■ Black-faced spoonbill
■ 黒面篦鷺
■ ペリカン目トキ科
■ 体長：74cm

サギ類と見分けよう

河川や溜め池などの水辺には、クロツラヘラサギに似た鳥がたくさんいるため、間違えないように注意が必要です。中でもよく間違えられるのがダイサギ・コサギといったサギの仲間です。

クロツラヘラサギとダイサギやコサギは体全体が白いという共通点がありますが、嘴の形で簡単に見分けることができます。またサギの首は細くて長いく、身体の大きさも異なります。

サギの仲間は水辺の鳥の中で最も身近な鳥のひとつです。一年中見ることが出来ます。

ヘラサギと見分けよう

ヘラサギはクロツラヘラサギと同様に日本に渡来し、姿がとてもよく似ています。

見分けるポイントは顔の部分。クロツラヘラサギは目やおでこのあたりまで黒いですが、ヘラサギの顔には羽毛が生えていて白く、大きさも少しだけヘラサギの方が大きいので、よく観察すれば遠くからでも見分けが可能です。

クロツラヘラサギの群れの中にヘラサギが混ざっていることもよくあるので、よく観察してみましょう。

左がヘラサギ、右がクロツラヘラサギ。

個体を見分けよう

みんな同じ顔に見えがちな生きものの顔。でもクロツラヘラサギは個体ごとに特徴があるので、見分けるのも可能なんです。コツは目の周りの黄色い模様の形と、くちばしのシワ模様。

年齢によっても特徴が違います。若い個体はくちばしの色が淡く、シワもあまりありません。また、羽の先に黒い色が残っているので、翼を広げたときに違いがよくわかります。

若い個体は翼の先が黒くなっています。

繁殖地のクロツラヘラサギ。岩場に巣を作ります。

世界のクロツラヘラサギ

クロツラヘラサギは夏に朝鮮半島、中国北部、ロシアなどの無人島で子育てし、冬は南に渡って九州各地、沖縄、台湾、香港、さらに南のマカオやベトナム、タイなどで越冬します。

保全への関心が高まってきた近年では、クロツラヘラサギの国際シンポジウムも開催され、各国が協力して調査がすすめられています。

繁殖地における調査では、雛に足環などを装着し、渡りの実態が少しずつ明らかになってきました。

足環の色や数字によって、いつどこで生まれた個体なのかがわかるようになっており、博多湾でも毎年、足環を着けたクロツラヘラサギが観察されています。

クロツラヘラサギってどこで見れるの？

九州北部に位置する博多湾には、毎年多くのクロツラヘラサギが訪れます。渡り途中に博多湾を利用するクロツラヘラサギの数はおよそ 200 羽。そしてそのうちの 50 羽ほどが博多湾周辺で冬を過ごします。

福岡市内でクロツラヘラサギが見られる場所は、西区の瑞梅寺川河口や、東区の多々良川河口、和白干潟です。中でも多々良川河口ではとても近くでクロツラヘラサギを見ることができます。これほど間近に見られる場所は世界的にも珍しいそうです。

また、多々良川中流、瑞梅寺川河口周辺の溜め池でもクロツラヘラサギを見つけることができます。これまでクロツラヘラサギは海に近い干潟の鳥だと思われてきましたが、最近の私たちの調査から、海から少し離れた溜め池も重要な生息地の一つであることが明らかになってきました。

ココに注目！ 採餌行動をチェックせよ！

クロツラヘラサギの食事の様子はとてもユニーク。くちばしを水中に入れて首を左右に振りながら歩き、くちばしに当たった魚やカニ、エビ類などを食べます。

クロツラヘラサギは潮の満ち引きに合わせて生活をしており、餌をとるのは主に潮が引いている時です。潮が満ちている間は背中に顔をうずめて、みんなで休んでいます。

採餌行動の他に、飛んでいる姿にも注目してみて下さい。首をまっすぐに伸ばして優雅に飛んでいきます。

群れで追い込み漁をすることも。

名島海岸

名島海岸は昔の博多湾の姿を知ることができます。かつて名島神社から箱崎にかけて「名島潟」と呼ばれた大きな干潟が広がっていました。そのほとんどが失われてしまいましたが、名島潟の一部だった名島海岸の干潟や岩礁、砂浜には今でもいろいろな生き物が暮らしています。

ミドコロ1 海水面

冬の海を賑わす仲間たち

10 月を過ぎると、名島にも越冬のためにカモやカモメの仲間がやってきます。同じように見えるカモたちも、餌の採り方によって２つのタイプがいることをご存じですか？スズガモやホシハジロのように海に潜る「海ガモ」と、ヒドリガモやオナガガモのように岸部近くの水深の浅い場所で逆立ちしたり、水面に浮かぶアオサなどを食べる「陸ガモ」です。カモを見つけたら、どのように餌を食べているか観察してみましょう。

ミドコロ2 砂浜・岩礁帯

再生された岩礁で旅の途中の一休み。

春秋の渡りの季節になると、シギやチドリの仲間が名島海岸を利用します。彼らは夏に北極圏で繁殖し、冬には南半球で越冬するため、何千キロという長い旅をする鳥たちです。彼らにとって日本は繁殖地と越冬地をつなぐ重要な中継地となっています。

名島海岸では、福岡市が行った公園化事業により博多湾に残る貴重な岩礁地帯がなくなってしまうことになりました。そこで、ふくおか湿地保全研究会は WWF（世界自然保護基金）ジャパンと共同で福岡市に環境保全の要望書を提出し、その結果、福岡市によって人工岩礁（休息場１つ、餌場２つ）が設置されました。現在では渡り鳥に限らず、様々な野鳥が人工岩礁を利用しています。

ミドコロ3 神社周辺

歴史を感じられる場所。

神社の周りには樹木が多く、たくさんの小鳥たちが集まります。2012 年 4 月には名島城址公園が完成し、のんびりと時間を過ごすのにうってつけです。公園内には臥龍桜と呼ばれる大きな桜の木や、常に実が絶えないことから不断梅と名付けられた梅の木があり、地元の人々に愛されています。

歴史コラム

豊臣秀吉ゆかりの城 ～名島城～

天正十五年（1587）豊臣秀吉は九州平定後、筑前国主に小早川隆景を任じ、この地に城を築くよう命じました。一説によると、秀吉自らが城地を定め、城の要所を設計したとも言われています。また、文禄･慶長の役の際には淀君を伴い、宿泊しています。

文禄四年（1595）隆景の養子である秀秋が新たな名島城主になりますが、秀秋は後の関ヶ原の戦いにおいて徳川軍に寝返ってしまいます。

慶長 5 年（1600）、小早川にかわり黒田長政が筑前国主になると、立地的に城下町を作れないなどの理由から、福岡城を新たに築城しました。その際、名島城を解体してその石材や木材を使用し、また一部は移築されました。現在、名島城跡は名島神社となっており、天守台の一部を残すのみとなっています。

小さなアサリは海にかえそう！

春になると、名島海岸には潮干狩りをする人たちで一杯になります。潮干狩りをする際は、以下の事項に注意しましょう。

- 殻長 3cm 以下のアサリは採取禁止（福岡県漁業調整規則 36 条）
  違反者には 10 万円以下の罰金もしくは 6 ヶ月以下の懲役
- 間口 35cm 以上のジョレンは使用禁止（福岡県漁業調整委員会指示）
  1 度目の違反：県知事命令による処分
  2 度目の違反：県知事命令に従わなかったとして、50 万円以下の罰金もしくは 1 年以下の懲役

※これらの規則はアサリを採取する全ての人に適用されます！

3cm 以下の貝はまだ子供です。大人になって次の世代を残すまで採らないで下さい。そうしないと、貝の子孫がいなくなってしまいます。
また、アサリは水の浄化に役立つ海には欠かせない生きものです。アサリ 1 個で 1 日 10 リットルの水をきれいにしています。

御島崎・片男佐海岸

通称「香椎海岸」。かしいかえんの裏手に位置するこの海岸は、人工島事業とともにエコパークゾーンとして整備され、市民の憩いの場所となっています。昔の「香椎潟」の姿はなくなりましたが、現在も渡り鳥たちにとって重要な場所となっており、香椎海岸とその周辺でしか見られない鳥もいます。

「日本のハイビスカス」とも呼ばれるハマボウ。7月、8月に綺麗な黄色い花を咲かせます。

多々良川、名島海岸と同様に香椎海岸にも冬になると多くのカモがやってきます。

一面の黒いツブツブは全てウミニナ。

岩礁で休むミヤコドリとチュウシャクシギ。

ミドコロ1 御島神社周辺

香椎のシンボル、ミヤコドリ

香椎で見られる生きものといえばミヤコドリと、まさに香椎のシンボル的存在になっており、御島神社がある岩礁帯周辺で他のシギ・チドリ類と一緒に休息する姿がみられます。

ミヤコドリはチドリ目ミヤコドリ科に属し、白と黒の体に赤いくちばしがよく映える美しい鳥です。主に冬を過ごすため 10 羽前後が博多湾にやってきますが、そのうちの数羽はそのまま残り、香椎で夏を過ごすこともあります。ミヤコドリの日本への渡来数は少なく、香椎周辺は重要な越冬地です。

ミヤコドリの英名は"Eurasian Oystercatcher"。カキを食べる鳥という意味です。殻のままではなく、くちばしを上手く使ってカキなどの二枚貝の殻をこじあけて中身だけを食べるというなかなか器用な技を見せてくれます。貝類以外にも小型の甲殻類なども食べるようです。

ミドコロ2 香住ヶ丘海岸

ごつごつ岩場で身を守る

オオソリハシシギ
細くて長いくちばしが上にそっているのが特徴的なシギです。

香住ヶ丘海岸には岩礁帯が広がり多くの鳥たちが餌場や休息場として利用しています。

岩場の周辺は砂泥質で、貝類やカニなどを食べる鳥が集まります。また、満潮時には休息場に早変わり。陸から孤立する岩礁帯は敵から逃れる絶好の場所です。身体の色が岩場にまぎれるため、上から来る敵にも見つかりにくく、岩礁帯はシギ・チドリ類にとって欠かせない環境なのです。

メダイチドリ
春の渡りの時期には色鮮やかな夏羽がみられ、胸元は黒線のあるきれいなレンガ色をしています。

トウネン
春と秋の渡りの途中に博多湾へやってくる小型のシギです。ふくおか湿地保全研究会のロゴマークになっています。

ミドコロ3 特別緑地保全地区

海岸線の森は魚を呼ぶ

香住ヶ丘海岸のすぐ横に残る森林地帯は、福岡市により「特別緑地保全地区」に指定されています。海岸近くの森林は、その陰が海面に映ることで魚を呼び寄せる効果があると言われてきました。また、森の土の中に含まれる豊富な栄養分が雨水に溶け出して川や海へ運ばれ、魚だけではなく海の中の生きもの全てをはぐくんでいます。

また、海に近いこともあり、この森にはたくさんのアカテガニが生息しています。アカテガニはカニの中でも乾燥に強く、普段は山林や畑の陸上で生活していますが、7~8 月の大潮の時にはメスのアカテガニが卵を抱えて海岸に集まり、孵化と同時に仔ガニを一斉に海へ放つ様子が観察されます。しかし近年は、アカテガニの生息環境が減少したことや、海岸線の開発によりアカテガニが海岸へ出てこれなくなる等の原因によりアカテガニの数が減少し、都市部においてアカテガニの産卵を見ることの出来る海岸は珍しくなってきました。

ウミニナの仲間
小さな巻き貝で、香椎の砂浜を埋め尽くしています。

ミドコロ4 砂浜

海に親しむ海岸へ

浸食が進み、垂直な海岸線だったために海に近づきにくかったところを、エコパークゾーンとしてゆるやかな砂浜へと整備されました。現在はウミニナなどの貝やマメコブシガニ、コメツキガニ、ハクセンシオマネキなどのカニなどがたくさん生息しています。

マメコブシガニ
丸くて固い、拳のような小さなカニです。カニなのに横ではなく前に歩き、バックまでできます。

チュウシャクシギ
長いくちばしを砂の穴に入れてカニを探って食べます。

歴史コラム

日本書紀に書かれた伝説の神社

～神功皇后伝説～

海岸から海を眺めると、西側に鳥居が見えます。小さな祠と鳥居があるだけの小さな岩礁が、御島神社です。

日本書紀によると、戦いに向かう神功皇后は、この岩礁で結っていた髪をほどいて海に入りました。海から上がった彼女の髪は二つに分かれ、その髪を男の髪型であるミツラに結い上げました。男の姿となって戦う決心をしたのです。

香椎には他にも、髪を結った神功皇后が鎧を着けたといわれる鎧坂や、兜をつけた、あるいは戦いの後兜を埋めたといわれる兜塚といった皇后にまつわる場所があります。

万葉集にみる香椎潟

御島崎・片男佐海岸周辺の干潟は、昔は香椎潟と呼ばれ古くから地元の人々に愛されてきました。万葉集にも登場し、多くの詩人たちが香椎潟で詩を詠んでいます。中でも以下の三句は香椎駅近くに歌碑が残り、香椎浜北公園にも看板が設置してあります。

「いざ子ども 香椎の潟に 白妙の 袖さえぬれて 朝菜摘みてむ」（大伴旅人）
さあ皆の者、この香椎の干潟で袖の濡れるのも忘れ、朝の藻を摘もうではないか。

「時つ風 吹くべくなりぬ 香椎潟 潮干の浦に 玉藻刈りてな」（小野老）
海からの風が吹き出しそうな気配になってきた香椎潟の、潮を引いている入り江で今のうちに玉藻を刈りましょう。

「往き還り 常にわが見し 香椎潟 明日ゆ後には 見む縁も無し」（宇努首男人）
大宰府の行き帰りにいつも見慣れた、私にとって懐かしい香椎潟ではありますが、今日限りの見納めでこれから帰るので、明日からは見るすべもありません。

特集2

コアジサシの子育てを応援しよう

コアジサシの基礎知識

■Little Tern
■小鯵刺
■チドリ目カモメ科
■体長：24cm

コアジサシはチドリ目カモメ科に属する海鳥で、世界中に広く分布しています。「アジサシ（鯵刺）」という名前の由来は餌をとる姿です。空中で水面の魚を見つけると、一気に水中へ急降下。見事なダイビングで小魚をとらえます。小さな身体ですが、餌をとる姿はするどく、とてもカッコイイ鳥です。

コアジサシの現状

1990 年代、日本には約 10 万羽のコアジサシが飛来していたといわれています。しかし、近年の飛来数は約 15000 羽。日本で繁殖するコアジサシの個体数は急激に減少してしまっているのです。その原因のひとつとして、本来コアジサシが営巣地として利用する砂浜や河原の多くが、開発や河川改修などにより失われてしまったことがあげられます。そのため近年では、埋立て工事などで一時的に出現する裸地を利用して繁殖するコアジサシの姿が多く見られるようになりました。しかし、そのような環境は工事が進むとなくなってしまうため、コアジサシたちは再び繁殖地を探さなくてはなりません。

コアジサシはコロニー（集団繁殖地）を作り、集団で子育てします。これはカラスなどの天敵に対して集団で立ち向かい、卵や雛を守るためです。しかし、カラスの数が増えたことで撃退できずに襲われて繁殖に失敗してしまう例も少なくありません。また、コアジサシのコロニーに人間が侵入し、卵や雛を踏んでしまったり、親鳥たちが繁殖を放棄してしまったりということもあるのです。

こうした現状からコアジサシは環境省の第 4 次レッドリスト (2012) において絶滅危惧 II 類に指定されており、各地で保全活動がおこなわれています。

どこにいるの？博多湾コアジサシ情報

例年、博多湾には 4 月下旬頃からコアジサシが飛来してきます。しかし、5~6 月頃までに見られるコアジサシたちは博多湾で繁殖せずにさらに東へと移動してしまいます。しばらくは入れ替わり立ち替わりするコアジサシたちですが、梅雨が明ける 7 月上旬頃になると博多湾のどこかで繁殖行動が見られはじめ、いよいよ博多湾での子育てがはじまります。近年では海の中道海浜公園や西戸崎海岸の砂浜で繁殖が確認され、無事に雛が巣立っていきました。

数が減っているコアジサシにとって、日本で過ごす夏は子育てをするとても大切な季節。数少ない残された環境で頑張っているコアジサシたちをみんなで応援しましょう！

コアジサシの子育て

博多湾では 7 月から 8 月にかけての真夏の季節がコアジサシの子育て最盛期。
実際に博多湾で見られたカップル誕生から巣立ちまでの様子を紹介します。

5 月、デコイ（模型）を作ってコアジサシを待ちます。デコイはコアジサシに「ここは繁殖できる場所だよ」と伝えるためのものです。

7 月、博多湾でコアジサシの恋の季節がはじまります。オスがとってきた魚をメスにプレゼントしてプロポーズ。受け取ってもらえたらカップル成立です。

コアジサシの巣は浅いくぼみに卵を産むだけ。卵や雛の模様は天敵に見つからないように地面に似たまだら模様をしています。

コアジサシはオスとメスが協力し合って子育てをします。育ち盛りの雛のため、一日に何度も魚をとってきては雛に与えます。

真夏の炎天下。雛たちは近くの石の陰に隠れて太陽の日差しから身を守ります。

子育ての邪魔にならないように、少し離れたところから子育ての様子を観察。コアジサシとともに暑さと戦います。

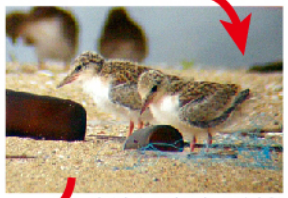
すのこで作ったシェルターは、日除けだけではなく、雛たちを天敵から守る役割も果たします。

営巣地に入らないでください！！

ふくおか湿地保全研究会は毎年コアジサシの飛来状況を調査し、繁殖地の保全のために福岡市と協力して営巣地に立ち入り制限のお願いの看板を立てています。

コアジサシの子育てが無事に終わる 8 月末まで、営巣地には入らないよう、ご協力お願いします。子育ての様子を見るときは、少し離れたところから観察しましょう。

すっかり大きくなって、身体は一人前。もうすぐ南へ渡っていきます。



すくすく、元気に育ってます♪

井尻上池

西鉄大牟田線井尻駅そばの井尻商店街の裏にある上池。都市開発が進む中、奇跡的に自然が残っている溜め池です。街中にありながらも、そこには鳥や昆虫など多くのいきものが生息しています。

ミドコロ1 遊歩道 季節折々の草花を楽しもう

上池の周囲を一周できる遊歩道があり、サクラやアジサイ、ツツジ、コスモスといった季節の花が見られます。また、キイチゴやクワなどの実が食べられて季節を楽しむことができます。

アジサイ
梅雨の時期を彩ってくれる花といえばアジサイ。色々な種類のアジサイが見られます。

クワの実
赤とんぼの童謡にも出てくるクワの実は、食べると美味しく、懐かしい味がします。

コスモス
秋になると上池西側の花壇にコスモスが咲き誇ります。

ミドコロ2 ヨシ原

天然の浄水器は鳥の棲みか

冬のヨシ原。

ヨシは池の水をきれいにしてくれる湿地性植物。夏、青々と生い茂ったヨシ原の中では、マガモやバンが巣を作って子育てをします。また冬になって茶色く枯れたヨシ原も、ウグイスやオオジュリンなどの野鳥にとっては大事な棲みかとなり、ヨシ原の中で餌をとる様子を見ることができます。

バン
黒っぽい身体に先の黄色い赤いくちばしが目立ちます。カモのようですが、どちらかといえばツルに近いクイナの仲間です。

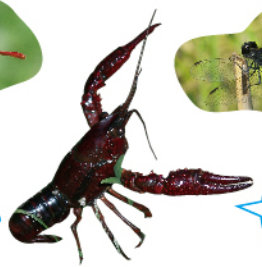
オオジュリン
薄茶色の小鳥。西日本には主に冬鳥として飛来します。枯れたヨシの茎や葉の中にいる虫などを取り出して食べます。

ミドコロ3 湿地帯と小池

ヨシ原の一部を湿地とメダカ池に再生

湿地帯には湿地性植物のセリやイグサ、カヤツリグサの仲間などが生え、近年では湿地を好むハラビロトンボが増えてきました。小池にはアメリカザリガニやメダカが生息し、トンボ類の産卵場所になっています。

ベニイトトンボ
お腹が細いイトトンボの仲間で、赤い色をしています。池沼などの湿地で少数が見られ、絶滅危惧種に指定されています。



アメリカザリガニ
北アメリカ原産の外来種で、要注意外来生物に指定されています。他の場所に移動させないようにしましょう。

ハラビロトンボ
お腹が横に太くて平たいトンボ。オスは青色で、メスは黄色とまるで違う種類のようです。

ヤマトシジミ
シジミチョウの仲間では最も普通に見られます。灰色に黒い点々模様をしています。

ゴマダラチョウ
羽は黒と白ですが、オレンジ色の目と口がよく目立ちます。樹液を好みます。

アサギマダラ
羽の表側は名前の通りあさぎ色（淡い水色）に黒のまだら模様をしています。蝶では珍しく渡りをします。

ナミアゲハ（幼虫）
いわゆる「アゲハチョウ」の幼虫です。ミカンの葉を食べて育ちます。葉っぱに食べた跡があるところを探してみると見つかるかも。

月に一度行っている観察会の集合場所

コガモ
小さなカモなので、よくカモの子供と間違えられます。目の周りが緑色をしているのはオスです。

クサガメ
漢字で書くと臭亀。捕まえると臭いにおいを出します。上池では繁殖が確認されています。

ハシビロガモ
とても幅広いくちばしをしたカモです。水面にくちばしをつけて泳ぎ、水中のプランクトンなどを食べます。

ミドコロ4 池 生きものたちの大切な暮らし場所

池にはガマなどの水草が生え、夏にはトンボが飛び回り、冬になるとシベリヤからコガモやハシビロガモがやってきます。また水の中にはカメやゲンゴロウの仲間など多くの生きものが生息し、ふくおか湿地保全研究会が毎月行っている観察会では絶滅危惧種の水生昆虫が発見されました。

↓カモたちをとても近い距離で観察できます。餌を食べる姿や、顔を背中にのせて休む様子など、かもの暮らしを見に来てみて下さい。

ミドコロ5 水辺の草むら

小さな虫たちがかくれんぼ

遊歩道沿いには野草が生える草むらがあります。そこにはテントウムシやバッタ、カマキリなどの小さな昆虫がたくさん生息しており、それらの虫を食べるニホンカナヘビやクモたちなどを見つけることができます。また、上池では一年を通して様々なチョウが見られます。さなぎやイモムシもいるので、探してみましょう。

↑一見何もいないように見える草むらも、たくさんの生きものが暮らしています。よくよく目をこらして探してみましょう。

ハンミョウ
カラフルで綺麗な色をした甲虫の仲間です。近づくと前に飛んで行くので、別名「ミチオシエ」とも呼ばれています。

ナナホシテントウ
最も代表的なテントウムシの一種。名前のとおり黒の点が7つあります。

ベニシジミ
オレンジ色の小さな蝶です。街中でもよく見られます。

ハラビロカマキリ
お腹が横に平べったい形をしているカマキリです。樹上が好きです。

井尻の上池観察会・清掃

池の生きもの観察に子供たちも夢中！

092-581-8998（冨永）
福岡市南区井尻４丁目
上池横駐車場

毎月、生きものの観察会や保全作業を行っています。また、春には上池で採れる野草を使った試食会も行っています。
是非一度ご参加下さい。
日程はふくおか湿地保全研究会の HP にてお知らせしています。
《HP》http://wetland-research.org/

- 軍手・作業用具の貸し出しあり。
- 長靴をお持ちの方は長靴でご参加下さい。
- 夏場は、熱中症予防のため、帽子着用・通気性の良い服装でお願いします。

特集3

今、『釣り糸被害』を考えよう――

毎年、釣り糸などのゴミによってクロツラヘラサギをはじめとする多くの鳥たちが命を落としています。増加の一途をたどる釣り糸被害。今私たちにできることは何なのか、一緒に考えてみませんか？

1

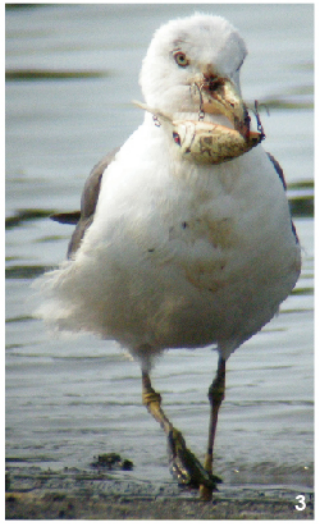
増加する釣り糸被害 失われていく命

魚釣りは古来より人々に親しまれ、近年では身近なアウトドアスポーツとして気軽に楽しむ人たちが増えてきました。誰しもが一度は経験したことがあるのではないでしょうか。しかし、釣りの人気が上昇するに伴って廃棄・放置された釣り糸や釣り針等による野生生物、特に野鳥の死傷事故が増加し、全国から多くの被害が報告されています。

2

釣りに使われる糸（テグス）は透明なため見えにくく、その強度により一度体に巻き付くと鳥たちは自力で糸を切ることはできません。またルアーや釣り針が付いたままの魚を飲み込んでしまう鳥も数多くいます。このような釣り糸・釣り針等によって負傷した鳥たちは餌を充分に採れずに衰弱し、人知れず死んでいきます。私たちが負傷した鳥を発見したとしても、彼らは体力が尽きるまで必死に飛び続けるため、保護できた時にはひどく衰弱しており、殆どの場合助かりません。魚を釣るためであるはずの道具は、私たちの手から離れた瞬間から、鳥たちの命を奪う凶器になるのです。

ゴミを捨てない、放置しない、それだけで救える命があります。『釣り糸被害』を減らすため、そして未然に防ぐためにも、まずは自分たちができることから始めてみましょう。



3

4

5

6

鳥を引っかけた!?そんなもしも時の 対処法

7

釣りを楽しんでいるとき、近くにいた鳥を誤って引っかけてしまうということも起こりえます。思わぬ状況に慌ててしまい、つい釣り糸を切ってしまうという人も少なくないでしょう。しかし、それは最悪の事態を招いてしまいます。そうならないためにも、対処法について知っておくことが大切です。

また、傷ついた動物を見つけたときは、そのままにせずに指定の場所へ連絡しましょう。

1. **決して慌てない。**
   まずは深呼吸して落ち着きましょう。
2. **そのままゆっくりと鳥を引き寄せる。**
   鳥は逃げようとしますが、絶対に釣り糸を切らないで下さい。
3. **鳥にタオルやシャツを被せる。**
   鳥が暴れないように、服やタオルなどで頭や目を覆うように被せて下さい。そうすることで鳥は静かになります。
4. **釣り針をはずす。**
   釣り糸がすぐに外せる場合は、その場で外しましょう。
   鳥が針を飲み込んでいたり、深く刺さってすぐに釣り針が外せない場合でも、決して鳥を逃がさないで下さい。
5. **指定の連絡先へ電話し、指示に従う。**
   福岡県の場合は、筑紫保健福祉環境事務所地域環境課、もしくは、ふくおか湿地保全研究会へ連絡し、指示に従って下さい。

8

9

10

11

■ 福岡県 筑紫保健福祉環境事務所　地域環境課
092-513-5611

■ ふくおか湿地保全研究会　代表：服部 卓朗
090-2850-6859

■ 事故を未然に防ぐためにも、マナーを守って楽しく釣りをしましょう。

野鳥の近くで釣りをしない。
過って鳥を引っ掛けたり、鳥がルアーや釣り針を餌と間違えて飲み込んでしまうおそれがあります。

釣り針が残った魚を廃棄しない。
魚の体内に残った針は、後にその他の動物を傷つける原因になります。

釣り具から目を離さない。
釣りをしている間は、必ず釣り糸の先から目を離さないようにしてください。

廃棄する釣り糸はハサミで短く切断する。
長いままの釣り糸を廃棄すると、ゴミ集積場でエサをあさる鳥類が糸に絡まるおそれがあります。切断後、袋等に入れて廃棄して下さい。

道具、ゴミはすべて持ち帰る。
釣り糸、釣り針、ルアー、その他ゴミ等を捨てたり放置して帰らないで下さい。

落ちている釣り糸・釣り針・ルアーを拾う。
他の人が廃棄した釣り糸等を見つけたときは、そのまま放置せずに、できる限り回収してください。
みんなできれいな釣り場を維持しましょう。

1 背中にルアーがかかり、飛べずに暮れるクロツラヘラサギ。保護するも、その後死亡した。
2011 年 11 月 多々良川河口
撮影：木下マス子

2 清掃活動で回収された釣り糸とルアーの一部。このような釣りゴミは一向に後を絶たない。
2013 年 1 月 須恵町寺浦池
撮影：花田正孝

3 釣り針がくちばしの根元に刺さったウミネコ。保護できず、その後どうなったかは不明である。
2010 年 7 月 多々良川河口
撮影：服部卓朗

4 チヌ仕掛けを飲み込んで死亡したコサギ。
2003 年 1 月 大阪南港
撮影：石井正春

5 釣り糸と釣り針で負傷したセグロカモメの脚。
2009 年 10 月 大阪南港
撮影：岩崎隆治

6 釣り糸に掛かった魚を飲み込み、糸に絡まっていたウミアイサ。釣り人が糸を切ったと思われる。
2011 年 12 月 多々良川河口
撮影：富田宏

7 釣り針を飲み込んだシロチドリ。釣り針にゴカイがついていなければ、飲む込むこともないだろう。
2006 年 8 月 兵庫県
撮影：三木敏史

8 サビキ仕掛けに絡まったハマシギ。さらに仕掛けが木に引っかかり、死亡した。
2005 年 12 月 大阪南港
撮影：石井正春

9 昔釣り堀だった場所で餌を採り、脚に釣り糸が絡まったコハクチョウの幼鳥。
2007 年 3 月 滋賀県草津湖
撮影：吉岡美佐子

10 釣り糸が脚に絡まったキアシシギ。脚先は壊死寸前になってしまっている。
2009 年 10 月 兵庫県
撮影：三木敏史

11 くちばしが折れてしまったクロツラヘラサギ。詳しい原因は不明だが、ゴミにひっかかったものと推察される。死亡しているのが発見され、現在は剥製となって東区役所で環境保全を訴えている。
2007 年 3 月 多々良川河口
撮影：木下マス子